



1680
4

河清

美濃庄

其蹟諸國物語

美濃庄文庫

四之巻

櫻庭藏書

目録

第一 男おとこ者ものはは夏なつには母ははのむすめ白しろ齒はのむすめ娘むすめ

越こし後ご國くに也なり尾お家けのむすめ侍さむらい子こ侍さむらいのむすめ横よこ之の糸いと

川が將らのむすめ小こ針はり葉は草くさ部ぶ也なりゆゆ久く片かた之の花はな者もの

分ぶん別べつとしるむすめ程ほど婦むすめ人ひとのむすめ仕し女によのむすめ娘むすめ乃なり内うち記き

Handwritten mark

第二

尋むるに店のかかるは深し男

その琴は若くをきて金銭を始むる

早急で一盃喰ふ若折かぐえの足

病を強めて尼が仲人の指乃を

第三

款の流家はみかま古いまの自

一達いあひこさ短髪ハほ梅乃基

君ある不義の足切と推さ足才の縁

我身の非義と顧る款がふ縁の縁記

其積諸國物語卷之四

一 男ありは若くは母の白歯の始

冬枯のころ梅よ。若のなりうは海なりうるをさのけしきの時をぬ梅の

豊うと人丸もをさきとさて。若のうのちを御中りて孫は

たまひ。その代りの梅人月若と梅おれを二つあて若のうを

大梅の若れ事どは。越のころ大言の目とよるこがしるはよの

わは。さすはゆとくおそるしそ。若を御よりは。立を梅の系

もつと。二は。さすはゆとくおそるしそ。若を御よりは。立を梅の系

事と。それとさるいおのいよんかう。さ。梅の人乃若くは。耳を

ふ。さ。梅の隣家より人。をさる。さ。梅の隣家のさ。梅の隣家の

さ。梅の隣家のさ。梅の隣家のさ。梅の隣家のさ。梅の隣家の

の。さ。梅の隣家のさ。梅の隣家のさ。梅の隣家のさ。梅の隣家の



